

---

# 最強伝説～女神のせいで～

ベスWRS

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

最強伝説〜女神のせい〜

### 【Nコード】

N5159V

### 【作者名】

ベスWRS

### 【あらすじ】

俺は高橋緋籠

クールで無愛想というらしい

俺は高校生でトラックに引かれて死んだ

女神に強制ときに転生され女見たいな男になってしまう

そして強さがチートだ

有り得ない位強い

まあ女神は俺を何でもできたからそうしたらしい……

おかげで大変な事になっていく

……女神のせい

## 転生編

俺は高橋緋龍

普通の高校生

オタクでもないし普通の人間

強いて言うなら俺には親がない

……孤児だ

育ての親はいる

高校にも通ってるが

「緋龍」

こいつは中川隼人

幼なじみで無駄に明るい奴だ

「……何だ中川」

「お前さー笑わないよな」

こいつは俺に親がないのを知らない

……まあ言う必要がない

「……必要性が無いだろ？」

俺は自分は笑う必要がないと思ってるしな

「あのな」

いい加減飽きてきた

「……」

10分程しばらく会話は無かったが

「あ……あれトラックじゃねえか……!?」

本当だ……

こっちにくる……!!

「に……逃げろ！」

俺の方にくる……!!

無理だ逃げ切れない……!!

「……………ここは……………ああそうか俺は逃げ遅れて死んだのか…と云うことは……………ここは天国か？」

「そうです。」

聞き慣れない女の人の声。

「……………誰だ」

「私はアテナです。」

アテナ……………？神の名前と被ってるな

「……………何なんだ……………」

「あなたは私の部下の誤りにより死んでしまいました……………だからもう一度転生させますがいいですか？」

……………訳が分からない

いきなりトラックで引かれて死んでそれで女神が現れて転生させる……………何が何だか理解できない

「……………ただ俺はあの世界で酷い目にあっただけだ」

「……………無理だ」

「え……………？」

「俺はあの世界で酷い目にあっても懲りた……………だから転生なんてしなくていい」

「流石にそれは……………」

止まってから何か思い付いたような顔になった

「流石にそれは罪滅ぼしができませんそれに他の世界にいけば何か

変わる筈です」

……この流れ……

「なので強制転生させます！G u t t o r a c k！（笑）」

「は??？」

その後俺は強制てきに転生されいづれの母親の腹の中に強制てきに入れた見たいたいな事になった

## チート位の強さ

あらずじ

緋龍が引かれて死んでアテナによって強制転生！

あらずじ終わり

(……ここは)

「気がついたわね」

(貧乏神か……)

「ちよつ酷いわ！」

(ところでここは……?)

「あなたの母親となる人の腹の中が正しいかしら　まだあなたは形  
すらない状態よ」

(……なら意識あるのは何故)

「転生者はそんなものよ」

(……後の時間はどうするんだ)

「うーんそうねえ。時間進めてあげるわ」

(ま……待て！まだ心の準備が……！)

「はいどーん」

……

こうして俺は生まれた

だけど物心がつく前に俺には親はいなかった

二人の姉と一人の兄しか

俺は男で今は9歳だという事も分かる

……そして俺は運の悪い事に神ランクの天使と人間の子供だっ  
たということ

そして背には天使の羽耳は尖っている

姉達は別の親から生まれているため俺とは全く異なる容姿ということ  
そしてオッドアイで髪は薄い青で髪の端は赤色だという容姿

しかもかなり格好いい

オツドアイの右の色は青で左の色は山吹だった

8歳になるとき姉達と別れてる事も分かる

そして一人で暮らしてることもな

「……今日は姉さん達が来るな……」

コンコン

「……入っいいい」

「おっ邪魔しまっあす」

この人は一番上の姉

名前はアイだったな

「お久しぶり。ホーリー」

この人は兄だ

名前はシャナクって言ったかな……？

「ホーリー元気だった？」

この人はこの中じゃ一番の末っ子の姉

名前はカナンだったはず

「……んで何の用」

俺の名前はホーリーという名前だ

「いやお姉ちゃんが「ホーリーのところに顔だしに行こう！」って……」

……

「……まあ何時もそうだからいいよ」

(せっかくだからこのアテナが姉弟の三人の性格を言っちゃっわよ

！一番上の姉は強引

兄は草食系男子

一番下の姉はおとなしめだわよ！)

10分後

「んじゃ帰るわねー」

「……さらば」

ふう……漸く外に出れる

まあ飛ぶだけが

「完全に帰ったから行くか」



ガチャ  
ばさっ

「んー風が気持ちいいな……」

鳥になつたみたいに飛べるため案外楽しい障害物は何も無いし

「あそこで降りるか……」

トッ

しかしでかい街だな

「ボソボソ……」

これだ

街に着くと必ず聞こえる

珍しいのか……なんなのか……

「!?!」

パシッ

……何だこれは

……玉……?」

「出ていけ!余所者!」

え……取りあえず飛ぶか

パサッ

パーン!!

「銃音……!?!」

俺はそれをとつさに見抜き

「魔法陣・打撃守護!」

パーン!!

銃弾は木っ端微塵になり消えた

「ふう……」

取りあえず……逃げるか

「魔法印・瞬間移動」

魔法印のおかげで逃げ延びた事が出来たが

「あそこにはもう行けない……」

当たり前だ

もう行けない

「…………別の所行くか」

パスッ

暫くたち

「あそこいいな」

トッ

着地した所はギルドの前だった

「ふーんギルドか…………」

入って見るか

入ったは入ったが

朝から酒を飲む人がいるから思わず

「朝から酒なんて…………頭大丈夫か？」

「おいてめえ」

なんか酒臭い匂いがする…………

「餓鬼てめえな朝から酒飲んで何が悪い？ああ？」

「…………朝から飲むとただの酔っ払い爺ですよ…………」

「ああ！てめえぶっ殺してやる！」

と酔っ払いが殴ってきたが

パシッ

「殺せる物なら殺して見て下さいよ…………まあ無理でしょうが（笑）」

腕で止めて足で思いつきり顎を蹴り上げた

酔っ払いを天井にぶつけた

「いやー凄いな君」

女が話し掛けてきた

「酔っ払いを蹴り上げただけです…………」

「何いってんの。あの人はAランクのバコウさんだよいやー凄いな

ー天井に当てちゃうなんて…………」

Aランク？何の事やら…………

「君さギルドに入ったらどうだい？」

「…………はい？」

「君位の実力があればSSランクだって夢じゃないよ!」

……何だこいつ

……蹴り上げられたいのか?

「まあまあ付いてきてよ」

……様付いてくか

「えつとこの子登録させて貰っていい?」

なんか話しが進んでる……まあいいや

「えつとお名前は……」

大体エルフの二十歳位の人かな……?

「……ホーリーです」

「ホーリーさんですね……お年は……」

「……9歳です」

「はい後は此方でやるので」

「もういいのか?」

「いいですよ」

ふう漸く解放された……でもあと一時間待てと……

……一時間後……

「ホーリーさんカードが出来上がりました」

これがカードか……

「ホーリーさんのランクは一番下のFランクになっております」

「はあ」

「ちなみにランクはSS、S、A、B、C、D、E、Fとなっております  
ります」

「ランクとはどうやったら上がるんだ?」

「ランクは進級試験で上がります」

「そうか」

後はもういいかな……

「依頼はあちらにあります」

「分かった」

依頼か……

（はい アテナ様です

お金について説明するわよ！

お金は小銅、銅、銀、金、プラチナになってるわ小銅は地球の1円  
銅は百円銀は千円金は一万プラチナは十万よ 覚えとく事！（ビ  
シツ）

依頼は……

## チート位の強さ(後書き)

はーい アテナ様でーす

魔法陣〓自分味方を守る

魔法印〓自分味方の補助的

という感じよ

攻撃系は後程

お金は

小銅〓一円

銅〓百円

銀〓千円

金〓一万

プラチナ〓十万

よ

それでは Bye-bye

依頼は……

「えっと……」

ゴ布林10〜25体退治

場所・リーフの森前

賞金・銀貨三枚

依頼者・リーフの森前の家の木こり

リーフの森前のゴブリンの群れを退治して欲しい

ミニワイバーン1体退治

場所・火炎の森

賞金・金貨1枚

依頼者・とある宮廷魔導師

火炎の森近くにミニワイバーンがいるので退治して欲しい

因みに依頼者も着いてくる

チューマウス5体〜10体退治

場所・リーフの森

賞金・銅500枚

依頼者・リーフの森前の家の木こり

リーフの森に何だかチューマウスがいっぱいいるので退治して欲しい

「か……」

一番ゴ布林退治が無難か

その後はゴ布林退治をする事にした

「リーフの森は……意外と近いな」

パサッ

暫く経って

スタッ

「あれか……」

ゴ布林が10……いや20いる

よし……

「魔法雷！サンダーブレイク！！」

ドカーン！！

「ギヤアアアア」

5は倒したな……

「たあ！！」

ジャキッ

「ていつ」

ドカッ

「魔法氷！クリスタルダスト！！」

「ギヤアアアア」

「よしっ……殲滅……」

「……………凄……」

ビクッ

「お前……一体……」

「すみません……あの戦闘……見させて貰いました……」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5159v/>

---

最強伝説～女神のせいで～

2011年10月9日12時30分発行